

# アマダイ通信NO. 121

(Tile fish network letter) 2017年ピラカンサス紅く

## 知人・友人各位

9月に南インドを訪問、20年前から数えてインドに足を踏入れるのは5度目。経済成長の大きな息吹。各所で交通渋滞の傍ら、メトロや高速道路、生活道路など交通インフラの工事が賑やか。手伝いを必要とする人に手を差伸べ、感謝と対価を頂き、共に繁栄するいい機会。収益に苦しむ日本の銀行も行き場のないお金を使って頂くのは如何か？20年前到る所を見た、路上で生まれ、路上で死ぬ数多の浮浪者の群れも見かけない。中国と同じように、格差を拡大しながら進む経済成長が底辺も底上げ、全体として豊かになっていることを実感。13億人とも言われる市場の成長を真近かに見て、中国の次はインドだ！と思う。

## ◎人間万事塞翁が馬

財閥系の大手デベロッパーの都市開発部長に顧問先の社長と営業。●さん、事務所は本郷ですよ！本郷で土地を探してます。建物が建っていても構いませんと言われる。名刺に「宅地建物取引士」の資格を書込むようにしたのが目についたか？昨年講習を受け、久しぶりに「宅地建物取引士」の資格を再々登録、●通信で不動産屋宣言をしたが、不動産業の登録をするには当座2百万円ほどの資金が必要で、手続きも煩雑。「建築情報の大元は土地情報、不動産業を開業すれば情報が早く入り、建築営業にも効果的」との意気込みはどこへやら、このままでは講習会を受けた時間と講習料が、又も無駄になりそう。

開業はまだだが不動産業宣言をすると、仲介してくれという情報が集まる。建主から設計事務所や施工するゼネコン、設備サブコンを紹介して頂き、顧問先のメーカーの担当者をそれぞれ引合わせ、顧問先の製品を使って頂くように提案するのが●の営業スタイルだが、建主が一番必要とするのは土地情報。サブコン、ゼネコン、設計事務所を飛び越え、直接建主のトップと会えれば土地の話も出来る。土地情報を提供出来れば一番建主の役に立ち、喜ばれる。土地情報を仲介する不動産屋も当然建主に話を持ち込みたい。俗に千三つとも言われ簡単には成立しないが、不動産屋の看板を出さなくても、営業先の建主に土地情報を持ち込んで欲しいという不動産関係者から、次々話が持込まれる。

前職の高橋カーテンウォール時代、バブルが弾けてこれから5年、10年はPCカーテンウォール（コンクリート製の外壁パネル）を使うような民間の大きい建築プロジェクトはない。儲からないからやらなかったが、これからは中央官庁や自治体、JRやNTT、UR（都市再生機構）など、「堅い所」の営業をしないといけない。東大、しかも法学部に長くいた●なら、そんな所に知り合いが沢山いるだろう、営業に回れという。社長に言われたことが厭なら、会社を辞めるしかない。仕方なく、出世途上のかつての仲間や友人・知人、栄達した先輩に頭を下げて回り、会社に貢献。人脈の錆落としも。

官僚養成学校の東大で、あろうことか「帝国大学解体」を叫び、駒場の7年間で7回お縄を頂戴、足掛け3年中野刑務所の独房に繋がれ、30歳まで学生をする。ヤクザも驚く？経歴が、仕事に繋がると考えたことはなかった。まして、営業コンサルタントとして独立、20年も事務所を維持出来るとは思わなかった。人間万事塞翁が馬。これまでお世話になった方々に、土地情報の提供を媒介に更にお役に立てると嬉しい！

## ◎夢追う人、夢つなぐ人

持ち前のネットワークで人と人を繋ぎ、夢の様な製品や工法を世に出す手伝いもする。画期的なものであればあるほど、世の理解を得にくいことも。練馬と杉並に続き、光ヶ丘の巨大清掃工場をすっぽりテントで覆い解体中のトータル環境社の全覆い工法。ここまで来るのに時間がかかったが、次の目黒の清掃工場では解体だけでなく、現地建替えの新しい清掃工場の基礎工事までテントをかけてやるという。


現場をスッポリテントで覆って工事するので、騒音、粉塵、ダイオキシン、アスベストも外部に漏れない。清掃工場や火力発電所、化学プラントなどの解体工事で主に使われて来た全覆い工法だが、清掃工場を解体、跡地に新しい清掃工場の建設が始まると、杭打ちなどの地下工事でも当然のように騒音や振動が発生、近隣から苦情が出る。そこで次の目黒の清掃工場からは、新築の地下工事が終わるまで現場をテントで覆い続けるという。大きなテントで工事現場をスッポリ覆って地下工事をする、雨が降っても、風が吹いても工事が可能で工期が短くなる。他の事情が許せば24時間施工も可能。人と建機の稼働率が上がりコストダウン、職人も手待ちがなくなり、稼ぎが増え、生産性が上がる。

清掃工場のみならず一般の建築工事でも事情は同じ。大型ビルの建設現場は天候にも左右され地下工事に時間が掛かる。杭打ちなどの騒音も発生する。地下工事が終わるまで現場をテントで覆い、地下を掘ってから杭打ちすれば、基礎工事の工期も短縮、コストダウンも出来る。生産性が上がれば、週休二日も可能で、働き方改革につながる。工期が短くなれば工事費の利息負担も減り、ビルの賃料も早く入る。テントの経費を補っておつりが来る。地下を何層も掘って駐車場などを作る大型マンションでも、早期の分譲、資金回収が可能だ。大手デベロッパーの幹部に、顧問先のトータル環境の社長と会って頂き、夢の工法を売り込む。

道路や鉄道のトンネルや橋梁などの土木工事でも同じ。国交省道路局のキャリアの技官にも会って頂く。国道のバイパス工事が開削からトンネルに変わり、使い勝手の良くない「防音ハウス」を使う予定の現場で「全覆い工法」を提案、現場事務所の所長を紹介して貰う。働き方改革が叫ばれ、建設現場でも完全週休二日制を求められるが、そのためには建設産業の生産性向上のための仕掛が不可欠。夢の技術、「全覆い工法」で貢献したい。

## ◎最後の？結集！

団塊の世代もそろそろ古稀、毎日が日曜日という仲間も増えてきた。同期入学、駒場共闘の仲間辻村君が突然来社。理Ⅱから農学部に進学、獣医学科卒。内外の製薬・創薬関連企業や医療メディアで研究者、ライターとして活躍。取り敢えず医療や製薬関連のコンサルタント、ライターとして、フリーランスで働きたい、何か仕事があったら紹介して欲しいと、かつての仲間と共著の「東大全共闘から三島由紀夫へ」を置いていく。

昔の70歳と違い、も含め古稀を迎えても元気な者が多い。毎日が日曜日になり、暇を持て余す方も。少子高齢化の時代、高齢者と女性ももっと活躍しないといけないのに、勿体ない。元気なシニアの知識と経験、ネットワークを必要とする企業も多い筈。日本の大企業をリストラされた研究者、技術者が韓国、台湾、中国に渡りそれらの国の競争力を強化したともいわれる。日本のシニアと（中小）企業のマッチングを上手く出来ないか。

かつての駒場新聞の編集長、出版企画会社を経営、作家、翻訳家、選挙コンサルタント

としても活躍するマルチタレント、前田君と新橋ですしをつまむ。来年から再来年に向け、全共闘運動から半世紀。最後の記念イベントをしようかと盛り上がる。団塊の世代の最後の結集を図り、社会と世代をマッチング、新しい社会貢献の場をつくれないかとも思う。

## ◎ロシア革命 100年！

かつて社会主義革命を叫び、等しからざるを憂いた若者が、老境にあって、ゴルフだスキーだと車を飛ばし、仕事の付き合いだと夜毎杯を重ねる。欲望に忠実なるかの如き己に、忸怩たるものあり。「乏しきと均しからざるを憂う」がマルクス主義。搾取と抑圧の資本主義のシステムから人々を解放することで、生産性も飛躍的に向上、疎外からも解放、万人の自由が実現するとマルクス。大陸のマルクス主義を弄ぶ金権資本家、己の富貴には口をつむぎ、政敵の蓄財を声高に叫び追い落とす輩が語るマルクス主義とは何？強権による抑圧、自由の制限は新たな腐敗を呼び、生産性の向上と衝突、その極端となる。アルコールで澱んだ🐟の目にはそう映る。

百年前、第一次大戦でロシアは敗北を重ね、食糧危機が深刻化、大規模なストライキやデモが拡がり、混迷が深まる。1917年3月、自由主義者が臨時政府をつくる（二月革命・ロシア歴）が、11月にレーニンのボルシェビキが権力を奪取（十月革命）、社会主義（共産主義の初期段階）ソ連が成立。マルクスを読まざれば学生に非ずの時代、ジョン・リードのルポ「世界をゆるがした10日間」を読み心躍らせ、ロシア革命の先に人類の未来を夢見たのは🐟一人か？戦時下、労働者・農民による独裁と生産手段の共有、計画経済をレーニンはやむなく導入。後継者スターリンはそれを恒久化、非効率を招き、一方の盟主アメリカとの体制間競争に敗れる。ロシアソビエト連邦は1989年、ベルリンの壁と共に崩壊、ロシア革命から百年、共産主義に対する期待は地上から消えたかの如くだ。

資本主義の不均等発展という歴史の大きな流れの中で、ベトナムでの敗北を機にアメリカも国力が衰退、日本、次いで中国が台頭。他方、中国も成長する経済が、締め付けを強める共産党独裁体制を成長への枷と感じ、自由な活動を求める日が来る。一足先に外資主導の経済の高度成長を遂げ、現在の中国共産党紛いの国民党独裁が崩壊、民主制へと移行した台湾の歩んだ道でもある。韓国も又、日韓条約の締結と日本による賠償金の支払を呼び水とした、外資導入による経済の高度成長の過程で開発独裁が崩壊、民主制へと移行した。一党独裁が弛めば、中国の場合は強権的・軍事的に抑圧・支配されている少数民族地区の自主・自立の運動を勢いづかせ、これら地域の独立を必然的に伴う。

老少平の改革開放政策を機に、ニューフロンティアの安価な労働力を目指しグローバル資本主義は中国に殺到、競って資本と技術を投入、日本、韓国・台湾に次ぐ「世界の工場」に仕立て上げ、国民所得を向上させ、一大消費市場とも化した。活動分野の制限や民族資本との合弁制など、外国資本の自由な活動が制限された巨大市場で外資から技術を学び、力をつけた民族資本も国外への進出を図る。外資もより自由な活動を求め、民族資本も国内外での自由な活動を求める。膨大な安い労働力市場、購買力をつけた巨大市場あつての経済の高度成長だが、成長した経済はより自由な活動、より民主的な体制を求める。統一した大市場は強権的独裁だからこそ実現するが、その大きな土俵で花咲いた「社会主義市場経済」は自由と民主を求め、いずれ自律・自由を要求する。

「和楷社会」の実現を唱える胡錦濤政権下、わずかに進むかに見えた自由化・民主化も

習近平は「反腐敗運動」なる、独裁再強化で封殺。統制され、管理された単一市場としての維持を目指す。言論による監視の及ばない権力による規制は汚職・腐敗を伴う。習主席による「反腐敗運動」は腐敗した者同士の権力を巡る争い。習主席の娘はアメリカのハーバード大学を卒業した。日本でアメリカの有名大学への留学が少なくなったことが危惧されているが、ハーバードなどに留学するには生活費を含め年間4、5百万円はかかる。並みのサラリーマンの子弟には難しい。表向き、中国の公務員の給料は低い。高官でも裏がないと子供をアメリカの有名大学に留学させるのは難しい。習主席の右腕として腐敗・汚職官僚の摘発・追い落としに急な王岐山一族の巨額な不正蓄財が、在米中国人実業家により暴露された。「反腐敗運動」は腐敗した「中国の夢＝大中華再興」派による、腐敗した「和楷」派に対する弾圧、追い落としだ。規制された大市場としての統一中国はそのままに、民族資本の膨張欲を、かつてのシルクロードの復活という、「一带一路」へと導き、中華経済圏の拡大を図り、己の懐をも膨張させる、一石二鳥の策。国内での規制はそのまま、対外膨張を進める中国に、日米欧のグローバル資本主義が殺到、競って資本と技術を投入した結果でもある。ニューフロンティアを求める自らの自己増殖「欲」が産み出した「鬼っ子」、「中国の夢」だが、「大中華の夢」の実現が先か？自由化・民主化、民族自立が先か？

### ◎上には上が！

小中学生の全国学力テストで、今年も故郷秋田県が全科目でベストスリーに入ったことが報じられるが、大学進学、特に東大進学については、●の頃と同じ様に全県で毎年十人ほどと代わり映えしない。義務教育での平均的な高学力が大学進学に反映しない。全体の底上げのため成績上位の子には分かりきったことでも、繰り返しドリルが行われるという。落ちこぼれを無くすには効果的だが、先のことを考えると、分かる子には解りきったことを繰り返すのではなく、別の課題を与え、或いは自由に学習させ、興味のある分野を深め、自分で考え、自分で解決する能力を函養する方がよくはないか？

小学生の頃、担任の遠縁の女の先生が仕事帰り我が家に寄り、「お宅の革ちゃんは授業中教室をうろうろし、落ち着かなくて困る」とお袋にこぼしていた。分かり切ったことを繰り返す授業に退屈、他の子に教えて回っていた。小中学生時代、学校の勉強は宿題しかせず、都会の子と違い、習い事なども一切なし。明るい内は野山を駆け巡り、滑り、海に釣糸を垂れ、潜る。夜はそこいらに転がる新聞や姉妹の教科書、本を貪るように読む。中3の冬休みから、五能線で30分もかけて、解りきったことしか話さない授業を聴きにいくのがつまらなくて、学校には行かず家で一人で勉強する。学校からも、親からも、学校に行きなさいとは言われない。自由に勉強させてやろうという配慮だったのか？やりたいことを、やりたいようにやる。いつの間にか「規格外れ」の子に育つ。

高校でも教科書をなぞるだけの授業では物足りず、高一の頭から大学受験の分厚い参考書を買込み、解らないながらも挑戦。解説を読んで理解することに努め、自学自習。解らないところは先生に質問。二度目は最初に×のついた問題に挑戦、三度目はふたつ×のついた問題にだけ挑戦、最初に半年かかって1回やり終えたのが、二度目は三ヶ月で、三度目は一ヶ月半で出来るようになる。知的好奇心とチャレンジ精神、負けず嫌いがあってのことだが、一年生の内に大学受験の勉強が終わっていたような気がする。

そんな●でも東大入試には失敗する。中学の修学旅行以来の東京。本郷の法文25番か

31番だったか？進学校の連中が大きな階段教室で声を掛け合い、異様な興奮状態。うぶな田舎者の●は圧倒される。試験開始、教室が水を張ったように静まり返っても、●のハートは波打ったまま。最初の数学、いつもなら全部の問題をざっと見て、簡単な計算問題から始める筈が、一問目から手をつけるが分からない。二問目、三問目も解けない。いよいよ頭は空回り、5問で2時間だが、結局一問も解けない。隣席の宝賀君、北海道の新設高校の特待生で、晴れているのにゴム長靴に傘、鼻血まで流すが合格者名簿に載っている。一年先に三鷹寮に入り、法学部でも成績優秀、司法試験にも現役合格、大蔵省に入る。

## ◎革爺と孫娘メイの、世界遺産白神、素潜り紀行（17.8.11～16）（Ⅱ）

### ④海女ちゃん誕生！

サザエやアワビの宝庫で、大きなアイナメをヤスで面白いように突いた筈のタナコバだが、サザエやアワビのかけらも、アイナメの影も見えない。ここでも背丈が伸びてスクリーンに巻き付き、邪魔藻と呼ばれこともあるホンダワラやワカメなどの、海の森をつくる大型海藻類は見かけない。兄の家でご馳走になったサザエやアワビも、昔から考えると信じられないくらい小さい。漁師の子供に比べれば釣りも素潜りも上手くなかった「郵便局の革ちゃん」も、あんな小さなサザエやアワビは獲らなかつた。貝や小魚の餌や産卵場、隠れ家、大型魚にとっては餌となる卵や小魚を捕る餌場となる藻場がないのでは、漁業は衰退する一方だ！漁村で漁業が廃れば、人口は減り、村は消滅する！

タナコバと赤岩の間には、水面下にいくつか浅瀬があって、瀬伝いに潜りながら泳いで行くが、途中の瀬で小さなサザエを見つけ、メイにあれと指差すと、一瞬頭を持ち上げ、上げた頭を下に、尻を上、カル鴨が潜って餌を捕るのと同じ要領で潜り、手掴みの獲物を突き出すガッツポーズ、水面に顔を出す。海女ちゃん誕生！赤岩の近くで、爺がこのツアー最大のサザエを採り、白岩から岸边に向かう途中で、メイが今度は自分が見つけたサザエを、自力で捕まえる。自立した海女ちゃんの誕生！

実家でソーメンのお昼を頂き、流石の革爺も食後二時間近く昼寝、昼寝は嫌だと言ってたメイも気がつけば横で昼寝。疲れを取ってから、3時頃不老不死温泉までドライブ。途中、高校同期の田口君の森山荘に寄り、半世紀以上振りに再会。「明日は宜しく！」と挨拶。JR 東日本の五能線 PR ポスターでよく使われる白神の山波が日本海に雪崩落ち、山と海の間を五能線と国道101号が縫って走り、余ったわずかな土地を人間が耕す緑の田んぼが散らばる絶景を一時間ほど走り、不老不死温泉着。県境を過ぎる頃、猿の群れもガードレールにちょこんと乗っかって、絶景を堪能？赤ん坊を抱っこした親猿もいて、メイは可愛い！と叫ぶが、前日の墓参りの後、旧い我が家のところから道路に出てくる一匹の猿を追いかけ、ドーン、ドーンと何発も爆竹を鳴らした様に、獣と人間の「共存」の最前線だ！

### ⑤宿借り、裸一貫からの家探し！

不老不死温泉では早速水着に着替え浜へ。地層が垂直に重なった黒い岩浜の小さな入江で、岸辺の泥色、瓢箪型の露天風呂を遠目に二人で潜る。荒めの波に流されながらも、一時間ほどで爺がサザエ2個、メイが一番大きなサザエを1個自力でゲット。そのまま暮れ泥む日本海を眺め、露天風呂。小2のメイは男風呂と女風呂を行ったり来たり。大人の男女を相手にコミュニケーションを楽しむ。多分まだ、娘でも、少年でもない、子供なのだ！

15日は夫婦とも医者、姪の綾ちゃん夫妻と一粒種の藍ちゃんが、忙しい仕事の合間を縫って森山荘に駆けつけ、10時半過ぎに合流。今回は2才の藍ちゃんの他に、本荘の病院で整形外科医をする旦那のマサキ君も一緒、早速地先の浜で泳ぐ。大きな石がごろんごろん転がるが、海の森どころか一面底生のアオサが生えるばかり。アワビはおろか、サザエの影も見えず、かろうじてつぶ貝を拾う。森山荘の田口君にソーメンを御馳走になる。

午後は先ず西瓜割りから。綾ちゃん持参の西瓜を、メイが探した流木の枝で叩くが割れず、マサキ君が割って皆でお昼のデザート。赤く熟れて美味しい。藍ちゃんもパクパク。浅場でファミリーする3人を残してメイと二人で遠出するが、サザエは見つからず残念。これで終わってはつまらない。手頃な石をコの字に組み合わせて竈を作り、紙切れと乾燥した天草のような海藻を下に敷き焚き付けとし、その上に引火しやすい木の皮や茅の茎のような物を重ね、更にその上に木の枝を載せ、綾ちゃんが用意したマッチを何度もメイが擦ってようやく着火。綾ちゃん持参の大鍋に取立てのつぶ貝をいれ、海水で煮る。昨日の3個のサザエは直接焚き火の上に置くと、自分の殻の中の水分でぐつぐつ煮え、いい味。サザエの壺焼きの出来上がり。四人で乏しきを分かち合う。

岸辺の岩の上で、尖った竹串の先をつぶ貝にさして身を取りだし食べる。手間だが適当な塩味で美味しい。殻を海に捨てると赤ちゃんフグが餌を求めて寄ってくる。澄んだ水底をよく見ると、ヤドカリが沢山集まり新しいマイホームの品定め。裸一貫で新居に移ると、もっと小さな家に住むヤドカリが、中古物件に引っ越し。人間界とどこか似ていて、皆で大笑い！しかもただ！住宅ローンがないのは羨ましい！

綾ちゃんファミリーが早めに帰った後、つぶ貝鍋がよほど面白かったらしく、又、つぶ貝を採ろうという。二人で貝を拾い、火を起こして竈に鍋をかける。ぐつぐつ煮えた鍋ごと海水で冷やし、竹串でまめに身を取りだし、楽しむ。内臓も最後まで取り出すと小さなピラミッドを造り、カラフルで、中々の造形美。あらためてフグとどんべ（ハゼ）の赤ちゃんに餌を、ヤドカリに新居を提供する。

## ⑥ババヘラアイス！？

田口君の森山荘は海辺に立地、フナムシが走り、アブが飛ぶ。キンチョールとハエタタキを借り、孫娘はキャーキャーいいながら、虫取も初？体験。夕食が終る頃、寄り合いから帰った田口君と四方山話。森山ではサザエやアワビは大きな石ころの下場にくっついてるので、大石の下場を覗かないと獲れないという。もっともここでも、観光客が「魚や貝を獲るのは違法です」と防災放送のスピーカーから大音量のアナウンス。

観光客を盗人呼ばわりするよりも、入漁料を取って、堂々と魚やアワビを獲らせてやり、その上がりで稚魚や稚貝を海に放し、ホンダワラやアマモ、カジメなどの海藻を栽培、漁業振興を共に計れば、観光振興にもなり、お互いハッピーになれると思うが、如何か？漁業振興の名目で様々な助成金が国や自治体から支出され、万里の長城のような防波堤も建設されているが、一般国民の税金からの支出が多いのではないか？

7時起き、朝御飯。孫娘は目玉焼は嫌いと、メロン二皿とサバ塩焼一切れ、ワカメと豆腐の味噌汁でご飯をお代わり。偏食で炭水化物のとり過ぎ。絶景の国道101号線を引返す。信号もなく、走る車も少なく、快適。かつての母校、八森中学校の下の鹿の浦の展望台で白神の絶景に別れを告げ、秋田名物、児玉冷菓のババヘラアイスを手到大喜び。婆さんが

ヘラでつくった見事な薔薇の形のイチゴアイスを爺もお裾分けして貰う。昼過ぎ、秋田着。妹の旦那が駅前のレンタカー会社まで迎えに来てくれ、豪華仕出し弁当のお昼。旦那と差しつ差されつする間に妹から針仕事？の手解きを受け、香港から里帰りする保育園の男友達、ケンケンのプレゼントに袋物？を作る孫娘。残り物でお弁当をつくって貰い、妹に駅まで送って貰う。こまちの車内で早速隣の席の年下の男の子と仲良くなり、若いお母さんにヘアメイク？までしてあげるタフな孫娘。どんなことをしても食べていけそう。革爺の少年時代からすると寂しい海だったが、自然の一端に触れ、世界を拓けることが出来たのではないかと今回の旅が嬉しいものとして、爺の記憶と共に永く心に残ると嬉しい！（完）

## ◎「エンディング産業と終活の今！」

### ・・東大三鷹クラブ第135回定例懇談会のご案内

藤島安之氏は新潟県柏崎高校の出身で、私と同じく昭和40年（1965年）三鷹寮入寮。彼は気風が良くて男らしいナイスガイであった。酒に強く、囲碁・麻雀・競馬を嗜み、スキーが上手なスポーツマンでもあった。彼も私も法学部に進んだが、駒場・本郷を通じて大学時代は入寮同期の5人+1人の6人の仲間で、一緒によく飲みに行き、雀卓を囲み、旅行に出掛けた。遥々と船に乗って行った新島の旅や西伊豆雲見の民宿で取れ立ての海の幸をご馳走になった旅は今でも忘れられない。

1969年の大学卒業後、彼は通産省（今の経産省）に入省した。キャリア役人の通例で、彼も内外の様々なポストで勤務した。課長クラスを終えた後のポストだけでも、中部通商産業局長、中小企業庁計画部長、産業政策局担当審議官、日銀政策委員、駐パナマ大使の要職を歴任し、2001年に退官した。彼は学生時代には勉強よりも遊びやスポーツに熱心だったが、役人になると、驚くほど熱心で情熱的な仕事師に変身を遂げ、歴任したポストそれぞれで立派な業績を挙げていたようである。

2001年の退官後、彼は業務顧問として日商岩井に入社した。当時の日商岩井はバブル経済崩壊に伴い多額の不良債権を抱えて青息吐息の状況にあり、その打開策としてニチメンとの統合が企てられた。彼は役人時代に体得した戦略的発想・説得力・幅広い人脈をフルに活用して、舞台裏で統合実現に向けた調整役として活躍した。彼の働きもあって、両社は統合して「双日」として発足し、大きく業績を改善させた。正に仕事師の面目躍如である。その功が評価され、彼は2008年に双日副社長に就任した。

彼は2010年に双日を退社し、互助会保証株式会社社長に就任（本年8月退任）。この会社は経産省の監督の下で、冠婚葬祭互助会に対する保証業務を行っており、エンディング産業と呼ばれる葬祭業が主要な保証対象である。仕事師の藤島氏は今やこの業界のオーソリティとなっており、本懇談会においては、高齢化に伴って多死社会化が進行する中、葬祭業の展望や直面する問題、個人として我々が自らの終活に関して心得べき問題などについて、有益で興味深い話を聞かせてくれるものと期待している。最後に、藤島氏は本業以外にも、日本パナマ企業家交流会の事務局長や越日工業大学の創設&支援者として、ビジネス分野における国際交流促進の仕事にも熱心に取り組んでいることを付言しておきたい。

（昭和40年入寮 宮村 智 記）

日 時：平成29年12月1日（金） 18時30分～21時

場 所：学士会館本館302号室（千代田区神田錦町3-28） TEL 03-3292-5931

会 費 : 6000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)、別途二次会  
申込先 : 干場 FAX 03-5689-8192、Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

## ◎テング酒場

10 月半ばの週末の夕方、三鷹寮の交換留学生歓迎&ハロウィンパーティに、寮の近所に住む 1 年先輩の辰さんとすし桶持参で参加。酒なしでは盛り上がれない爺二人は、時々顧問先と使う個室懐石の北大路、虎ノ門茶寮のイベルコ豚シャブコース、飲み放題付の格安宴会で 11 月にあらためて寮生と交流することにし、早目に退散。

先立つ 9 月末の土曜日夕方、本郷の「テング酒場」で寮生と交流会。初めての飲み屋で豚シャブコース料理に飲み放題付き 2 千 5 百円のびっくり価格。昭和 26 年入寮、労働省 OB の平賀代表、S41 年入寮の、S43 年入寮、KDD の OB で投資ファンドのオーナー、メナード化粧品取締役の勝部君、02 年入寮の宮中君と OB が 4 人、寮生が 13 人、内留学生が 5 人。店が騒がしく全体に話が通らない。事務所に移り乾き物で二次会。

都合四時間ワイワイ、ガヤガヤ。脱サラしてこの 7 月に起業したばかりの宮中君が、メインスピーカーとして更に若い寮生に話をしてくれる。最近の寮生の進路選択を見ていると、この国でも時代は確かに変わりつつある。役所や大企業に背を向け、ベンチャーやファンドに就職、自ら起業する寮の後輩も少なくない。時代をつなぎ、チャレンジする後輩の役に立ち、世代間、国際間の橋渡しが出来ると嬉しい。

参加者は、陳韋中 (2015・数理科学研究科 (D1)・台湾・台湾大学)、青山絵里香 (2016・文Ⅲ・愛知・一宮)、片岡丈人 (2016・文Ⅱ・青森・弘前)、小林義信 (2016・理Ⅱ・茨城・水戸第一)、檜枝悠太 (2016・理Ⅰ・兵庫・東大寺学園 (奈良))、與古田紗椰 (2016・文Ⅰ・沖縄・球陽)、吳語嫣 (2017・教養学部 経済・中国・北京大学)、周五婷 (2017・教養学部 法律・中国・北京大学)、馬欣然 (2017・教養学部 法律・中国・北京大学)、孟若為 (2017・教養学部 経済・中国・北京大学)、北浜駿太 (2017・理Ⅰ・岡山・倉敷天城)、橋本信歩 (2017・理Ⅰ・大阪・清風南海)、原田龍之介 (2017・理Ⅰ・愛知・東海)、OB が宮中大介 (2002・文Ⅲ・教養学部 生命・認知科学科・高知・嶺北)、平賀俊之 (1951・文Ⅰ・北海道・稚内)、干場革治 (1966・文Ⅰ・秋田・能代)、勝部日出男 (1968・文Ⅰ 法学部・鳥取・米子東)。

## ◎電気でアフリカの孤児を支援！

台風でゴルフが中止の 10 月末の日曜日、図書館で東洋経済、プールで一泳ぎしてから上野の寄席、広小路亭に。アフリカの未電化地域の孤児院の子供達を「電気」によって支援する東大の国際協力学生団体、GREEN HEARTS による三鷹寮 OB の春風亭昇吉君のチャリティー落語会。悪天候のため集まりが悪く、50 名ほど。それでもソーラー発電 LED 照明が 50 セットアフリカの子供達のために届くという。「豊かで平和」な日本で、遠いアフリカの人々を思い、想像力を働かせボランティアに励む若者に、若き日の己を重ねる。

## ◎終わりに (結びに代えて)

古稀を迎えた、ステージ 3b (殆ど治癒する見込なし) の大腸がん術後 15 年、近年降圧剤も欠かさず、HbA1c が 8 を超え、糖尿病の薬を飲むか？酒を止めるか？迫られる。20 年以上糖尿の薬を飲みながら酒を嗜む友人も。孫達と楽しむ時間をもう少しと思う。(再見)